

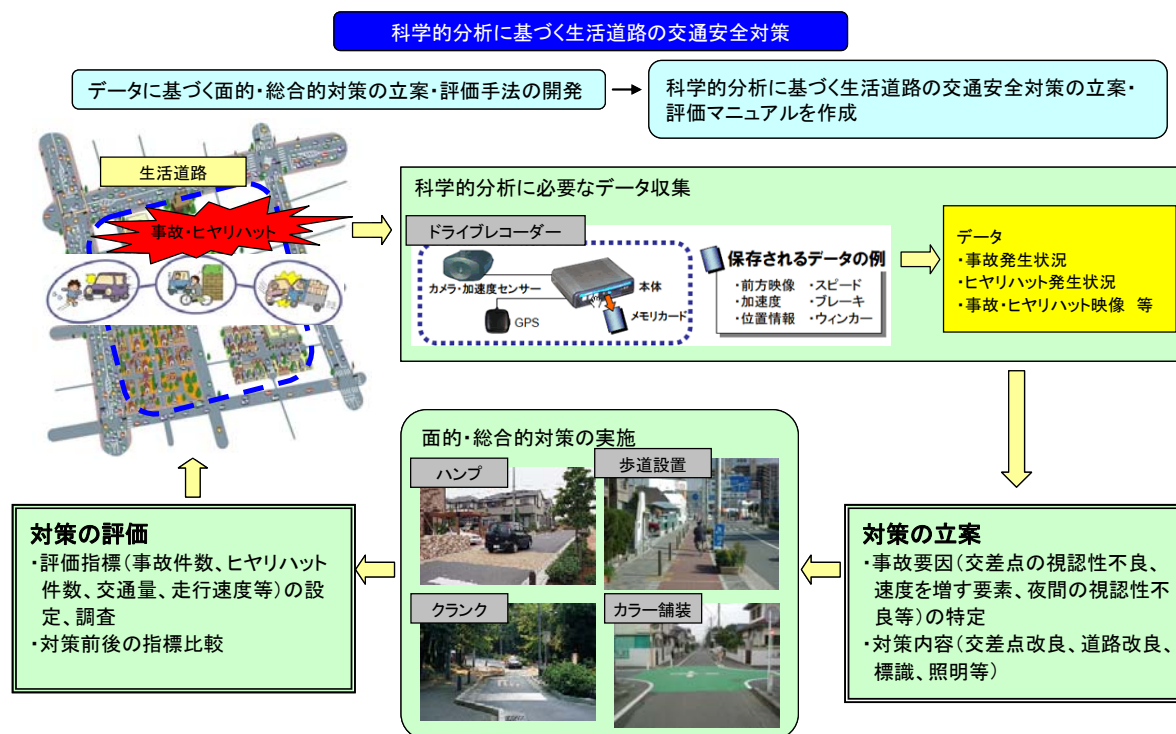
## 研究概要書：科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策に関する研究

プロジェクトリーダー名：道路研究部道路空間高度化研究室長 岡邦彦  
 技術政策課題：(2) 安全・安心に暮らせる日常の実現  
 関係研究部：道路研究部  
 研究期間：平成20年度～平成22年度  
 総研究費(予定)：約145百万円  
 コア：—  
 大枠テーマ名：交通事故に対する安全・安心  
 大分 類：交通事故の未然防止  
 中分 類：道路・交通環境対策  
 小分 類：過去の知見に基づく効果的・効率的な交通安全対策の実施

### 1. 研究の概要

生活道路では交通事故全体の半数近くが発生しているにも関わらず、科学的分析に基づく交通安全対策に必要なデータが不十分であり、対策にあたっては担当者の経験に頼っているのが実情である。

本研究は、生活道路において、より効果的、効率的に交通事故を削減するため、収集したデータの分析に基づく科学的な対策立案・評価手法を行う仕組みを構築するものである。



### 2. 研究の目的

生活道路において、道路管理者によるよりの確な交通安全対策の立案・評価を支援し、交通事故による死者・死傷者を削減する。

### 3. 自己点検結果

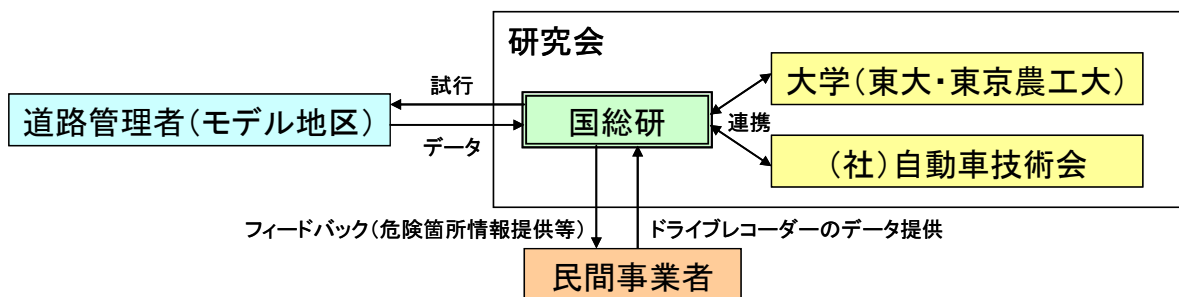
#### (必要性)

国民の生命、身体及び財産を保護する使命を有する政府は、道路交通安全対策に関する総合的な施策を実施する責務を有している。道路交通事故による死者数は年間6千人、死傷者数は110万人を超えており、交通事故の防止は、我が国の緊急かつ重要な課題である。中でも、地域住民の日常生活に利用されることの多い生活道路の交通事故発生件数、交通事故負傷者数は増加傾向にある。我が国では交通事故死者数に占める歩行者の割合が3割を超え、欧米諸国と比較して高い割合となっており、特に、高齢者では歩行者の割合が約5割、15歳以下の子どもでは約4割を占めていることから、生活道路の交通安全対策は重要である。

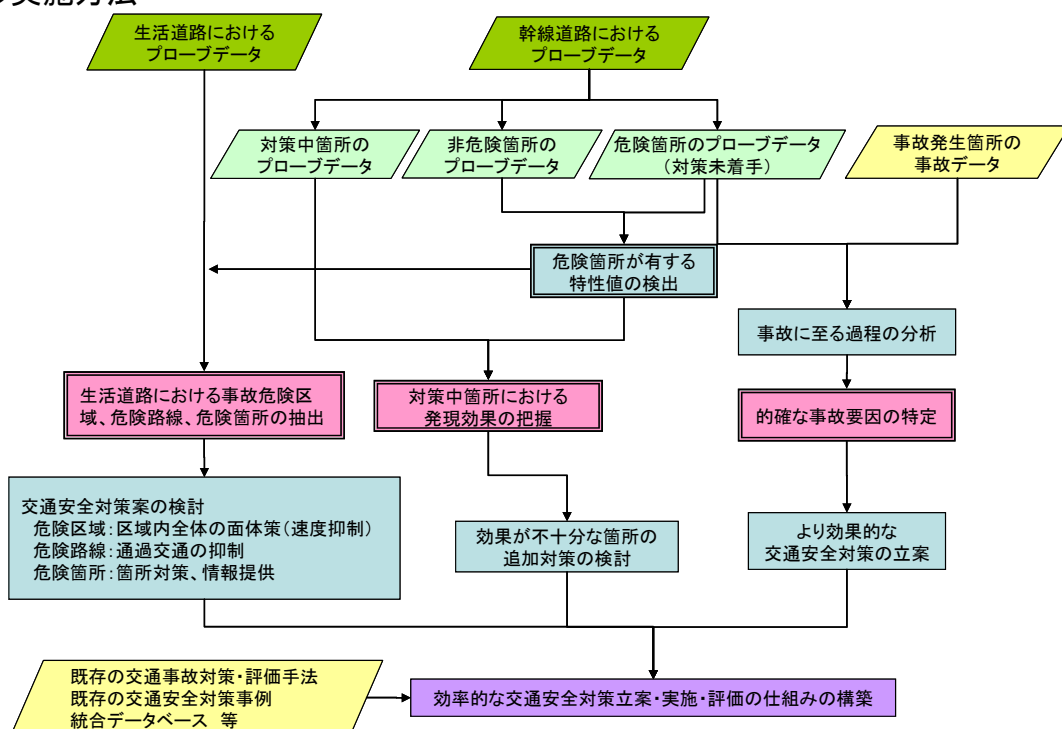
#### (効率性)

本研究では、物流事業者等とパートナーシップを構築することにより、生活道路における事故危険データとして、物流事業者等がドライブレコーダーにより独自に取得しているデータを、コストをかけることなく入手する。また、交通安全対策の仕組みの構築にあたっては、数カ所で試行して対策立案に必要なマニュアルを作成し、全国展開を図っていく。

#### ●研究の実施体制



#### ●研究の実施方法



年度計画と研究費配分

区分 (目標、サブテーマ、分野等)	実施年度			総研究費 約 145 [百万円]
	H 2 0	H 2 1	H 2 2	研究費配分
<データ収集に関する検討> ・事故・ヒヤリハットデータの収集・処理に関する検討 ・民間事業者等との連携による継続的なデータ収集手法に関する検討				約 50 [百万円]
<科学的立案・評価手法の開発> ・生活道路における交通安全対策事例の分析 ・生活道路の危険箇所把握・事故要因分析手法の検討				約 45 [百万円]
<施策への反映方策> ・生活道路交通安全対策データベースの開発 ・科学的分析に基づく交通安全対策立案・評価マニュアルの作成				約 50 [百万円]

(有効性)

データの収集・分析、対策の立案・評価に関する、科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策の仕組みを構築するとともに、現場への適用を手助けするためのマニュアルを作成し、生活道路における交通事故による死傷者の3割減を目指す。

## 研究課題名：科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策に関する研究

研究の成果目標	期待される研究成果	研究成果の活用方針(施策への反映・効果等)	備考
データ収集に関する検討	生活道路における事故・ヒヤリハット発生状況を把握する手法の確立	生活道路における危険箇所の抽出、事故要因の分析に活用	
科学的立案・評価手法の開発	生活道路における交通全対策事例の分析	生活道路における交通安全対策に必要なデータ収集に活用	
施策への反映	生活道路の危険箇所把握・事故要因分析手法の検討	生活道路の交通安全対策のマネジメントに活用	
	生活道路の交通安全対策データベースの開発	道路管理者に公開し、生活道路交通安全対策に活用	
	科学的分析に基づく交通安全対策立案・評価マニュアルの作成	道路管理者に配布し、生活道路交通安全対策に活用	